

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

能登高校魅力化プロジェクト

2 取組期間

平成 28 年度～（継続中）

3 取組概要

地域に唯一の高校の魅力を高めることにより高校の存続と発展を目指し、未来の能登町を背負って立つ人材づくりを後押しする。生徒や保護者のニーズが高まる大学進学について、公営塾を設置し学習環境を整えるとともに、地域を知るための講座「能登学」を実施することにより地域愛を高めることを目指す。

4 背景・目的

石川県の奥能登地域では、人口減少に伴う高校の入学者数が減少を続けており、地域の高校が存続の危機を迎えている。かつて能登町に存在した 3 高校 1 分校は平成 21 年に能登高校のみとなり、開校当初の 1 学年 4 クラスも平成 28 年には 1 学年 2 クラスまで定員が減少した。これを受けて、地域から高校が無くなると経済面だけでなく、交流人口や定住人口にも大きな影響を及ぼすと考え、地域の高校を地域で盛り立て、将来の町の活性化につなげるために能登高校魅力化プロジェクトを立ち上げた。

5 取組の具体的内容

能登高校魅力化プロジェクトの取り組み内容

○まちなか鳳雛塾（平成 28 年～）

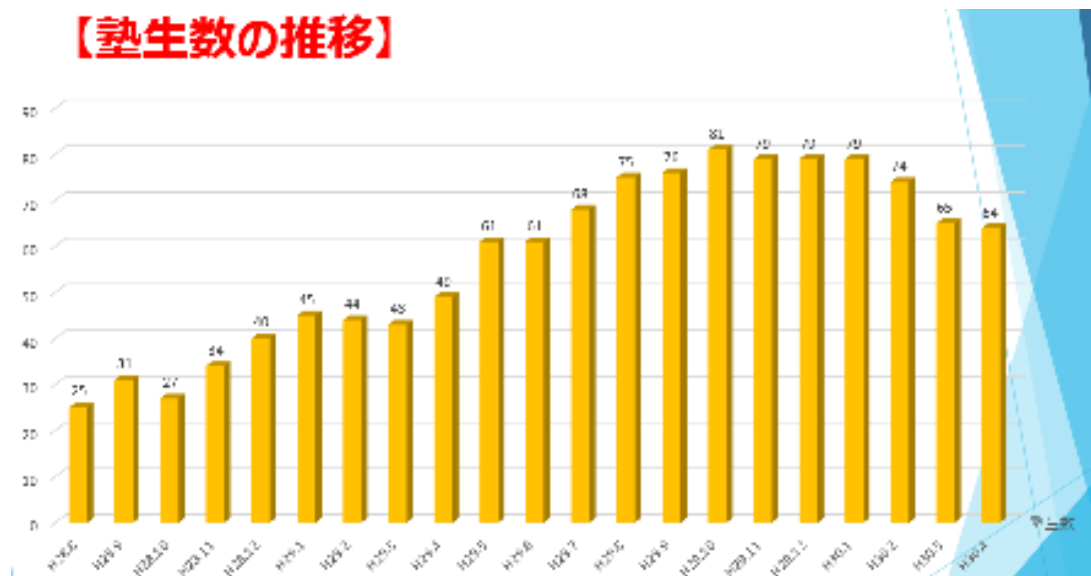
プロジェクトの柱となる公営塾。総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、塾自体の運営は民間塾会社に委託。自学自習方式を採用し、高校の先生と相談の上で塾での学習に活かしている。

対象：小学 4 年～能登高校 3 年

開塾日：月曜～土曜

利用料：月額 3,000 円（減免制度あり）

【塾生数の推移】



○能登高校を応援する会（平成 21 年～）

地域の学校を何としても存続させるため、平成 21 年の開校年に設立された。有志会員の会費と町の補助金で運営しており、各種補助事業を行っている。

- ・制服購入補助・通学定期補助・部活動補助・寮生補助・高校内公営塾補助
- ・生徒募集補助・給付型奨学金補助・国立大学入学一時金

○能登高校地域創造科課題研究授業（平成 30 年～）

平成 29 年度に映像制作を通して地域の魅力や課題の発見、メディアリテラシーの向上、伝える力の育成を重点に置いた取り組みである「メディアキャンプ in 能登町」を開催した。これが生徒達の深い学びに繋がったことを受け、今年度より地域創造科の課題研究授業に映像制作のノウハウを取り入れることとなった。

研究発表のツールとしての活用や、生徒自身の学びを深め、町へ愛着を持ってもらう効果を期待する。

回数：1 回 3 時間、年 5 回を予定

講師：フリージャーナリスト

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

当町では高校内と街中の2つの塾で連携した学習が行えるようICTを利用した学習アプリを採用している。

また、受験勉強ばかりでは大学進学で町外に出た後に地域を知る事は難しいため、地域を知り、地域を愛する人を育成することを目標に地域学である「能登学」を行っている。

7 取組の効果・費用

○効果について

他の要因が成果に繋がっている可能性も大きいいため、高校魅力化プロジェクトの効果を数値で表すことは難しい。進学実績や入学者の増加は高校の努力の成果であり、魅力化プロジェクトの成果と言うのはどこまでのものなのか計りかねる。ただ、通塾する生徒達の意識は明らかに変わってきており、国立大学への進学を目標に掲げる生徒が増えてきている。

○参考

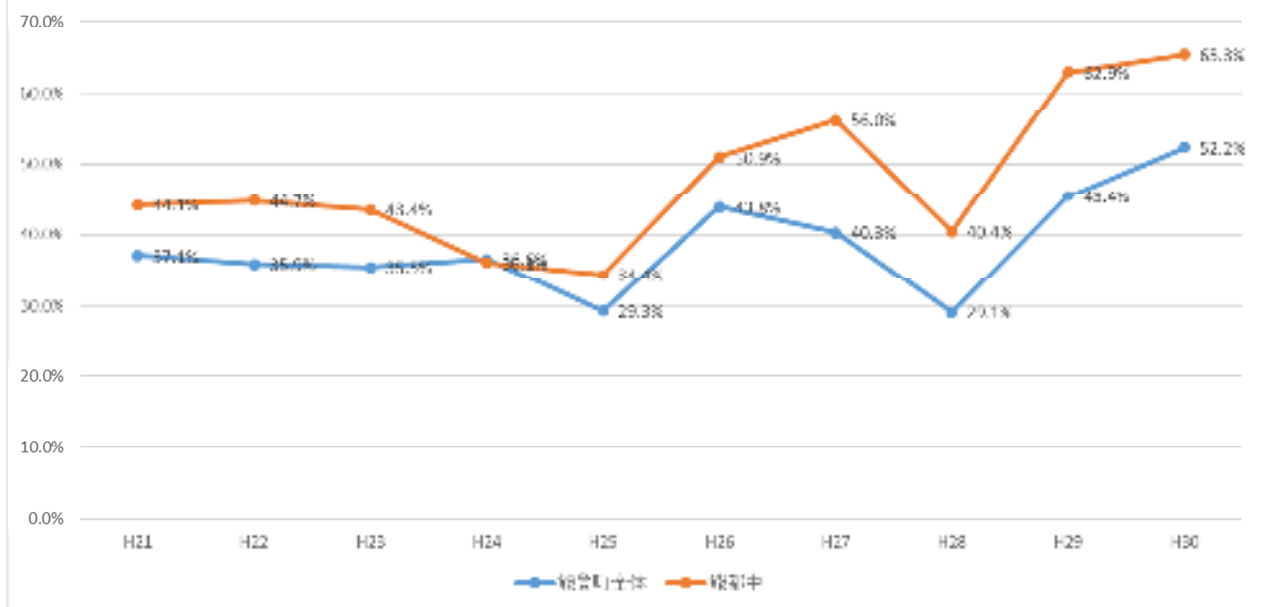
一助となった実績を挙げると、国公立大学への進学者数は年々増加しており、昨年度は過去最高の6人となった。

普通科は今年度の入試において、開校以来初となる入試倍率1倍を超えた。また、町立中学校卒業生の能登高校進学率はプロジェクトを開始したH28年度は30%を切っていたが、本年度は52%超まで急激に上昇した。

町立中学校卒業生の能登高等学校進学率

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
能登町全体	37.1%	35.9%	35.5%	36.6%	29.3%	43.8%	40.3%	29.1%	45.4%	52.2%
能都中	44.1%	44.7%	43.4%	36.1%	34.4%	50.9%	56.0%	40.4%	62.9%	65.3%

能登町立中学生の能登高校進学率



※町内の中学校数は4校、能都中は能登高校付近にある中学校。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

事前に他自治体の魅力化プロジェクトを視察した上でしっかりと準備を行い、次年度からの事業開始を予定していたが、平成 28 年度の入学者数の減少が著しく、急遽 6 月に補正予算で事業を行う事となった。地域おこし協力隊の募集や、公営塾を設置する場所の選定・工事などを一気に進めたため、振り返りや検証が中々行えず苦労した。

また、高校魅力化プロジェクトは高校側の理解あつてのものである。県立高校と役場という別組織のため、お互いの業務範囲や忙しさ、スケジュールなどを把握しておらず、良い案があつても整合性が取れない事や、高校に無理を言うてお願いするなど、負担をかけてしまう事が多々あつた。教員の過酷な労働が問題となっている今、負担をかけるのではなく、逆に負担を減らすような取り組みとしたい。

9 今後の予定・構想

地域の人材を地域で育てることを目標とし、能登高校を卒業した生徒が将来の能登町を担う流れを作りたい。そのためには、高校生が自ら問題意識を持ち、課題解決能力を伸ばしていく必要がある。生徒数が多ければ多いほど多様な取り組みに挑戦できるので、まずは生徒数の増加に力を入れていく。現在は 1 学年 2 クラスだが、ゆくゆくは 1 学年 3 クラスへ定員増となるよう活動している。

10 他団体へのアドバイス

日本全国で高校魅力化プロジェクトが広まっている。我々も先進自治体に習って手探りで事業を進めているが、地域や環境によって同じことをやっても合わない場合があるため、自らの地域の特色を活かした取り組みを行なうことが必要となる。まだまだアドバイスできる立場ではないが、過疎地域のプロジェクト同士で協力し合えると取り組みに広がりが出るのではないかと期待している。

11 取組について記載したホームページ

能登町ホームページ	http://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=12472
Facebook ページ	https://www.facebook.com/machinakahousu